

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2009.11.5 No. 58 連絡先 042-555-1911



11・8「基地はいらない！」沖縄県民大会に連帯

沖縄・宜野湾市海浜公園で、「辺野古への新基地建設を断念させる県民大会」が開催されます（同実行委員会主催）。隣接広場も加え、3万人以上の参加での成功を目指します。

同日、東京・代々木公園で開かれる国民大集会とも連携し、成功させましょう、と平和委員会は呼びかけています。

「横田基地の撤去を求める西多摩の会」も、沖縄のたたかいに連帯し、国民大集会に参加します。（写真は沖縄・名護市辺野古の米軍基地。SACO合意以降13年、沖縄県民は新基地建設のための杭を一本も打たせていません。）



三沢F16撤収と嘉手納F15一部削減を アメリカが日本側に打診？



「米政府がことし4月初旬、三沢基地に配備しているF16戦闘機約40機すべてを早ければ年内から撤収させるとともに、嘉手納基地配備のF15戦闘機約50機余りの一部を削減させる構想を日本側に打診していることがわかった。複数の日米関係者が11日、明らかにした。」と東京新聞などが9月12日、報じました。自公政権側（当時）は、保留状態とし、防衛省は「正式な提案」は否定。米軍の準機関紙は「日米間で米軍戦闘機の再編が議論されている」と報じています。アメリカの意図は？（写真：F16とF15横田友好祭）

矛盾深めるアメリカ 国家予算の約1割が海外駐留に費やされている

10月号の「安保廃棄」紙に、日本平和委員会・川田忠明氏の基地闘争交流集会の特別発言「矛盾深める米在外基地と軍事同盟」（要約）が載っていました。引用させていただきます。

「アメリカは、55万人を40か国以上に駐留させているが、いま、これが財政面の足かせになっている。2008年度には2400億ドルが海外駐留のため費やされている。この額は軍事費の約4割に匹敵し、国家予算の約1割を占める。日本政策研究所長のチャルマーズ・ジョンソンは、『アメリカを破壊から救うには、海外駐留を抜本的に削減すること』と述べている。この点で、オバマ政権が来年度予算で88億ドルの軍事費削減を打ち出したことは注目に値する。

いま、諸国民の運動で世界は変わりつつある。

軍事同盟は、ベトナム戦争後に東南アジアと中央アジアの軍事同盟が解体され、80年代南太平洋のANZASが解体。ソ連崩壊前後にワルシャワ条約機構が解体。90年代、南米のリオ条約が機能しなくなる。

国連憲章にもとづく平和共同体が広がり、2002年にアフリカ連合、04年には南米諸国連合、欧州連合、10年には中南米・カリブ海諸国連合が、ASEAN共同体が15年にできる。」

日本政府に、米軍への、異常に高額な財政支援をやめさせ、いまこそ「戦争NO！ 沖縄にもどこにも基地はいらない、安保条約廃棄を」の声を広げていきましょう。

（「平和新聞」11月5日号、川田忠明氏の「米国経済を破綻に導く海外駐留」をご覧ください。）

11月2日～13日 北富士演習場で 国道104号線越えの実弾演習 (No. 58 裏面)

日米両政府は、1996年、米軍が沖縄のキャンプハンセンで行っていた県道104号線越え実弾砲撃演習を1997年度より本土5ヶ所（北海道矢臼別、宮城県王城寺原、静岡県東富士、山梨県北富士、大分県日出生台）に移転することを決定し、1997年以降、分散実施しています。

「沖縄の痛みの分散」を口実に実施された米軍演習の本土移転ですが、沖縄キャンプハンセンでは、県道を封鎖しての演習はなくなったものの、その他の演習が激化し、演習による山火事は以前より増えています。移転された本土各地での米軍演習も年々拡大強化されています。

防衛省は、11月2日から13日まで、北富士演習場で県道104号線越え実弾砲撃演習を実施すると発表しました。訓練部隊、人員等は、部隊；1個歩兵大隊、人員；約390名、車両；約80両、砲数；6門とあります。今回の演習は、北富士演習場の訓練としては最大規模です。

山梨県生活協同組合連合会（高橋勇会長・組合員数22万人）は、10月28日、横内正明知事あての「北富士演習場の全面返還・平和利用の早期実現」を求める要請書を手渡しました。

ノースドックへの軍事物資の搬出入 基地強化 反対！ 日米政府に抗議！



10月29日、北富士演習場で使用する戦闘車両や大砲などが、ノースドック（横浜）に運び込まれました。これに対しノースドック基地問題懇談会（事務局団体・横浜労働組合総連合・横浜市従業員労働組合労組・横浜港湾労組協議会・横浜平和委員会）と県平和委員会・県原水協は、直ちにノースドックの監視行動を海上から行い、村雨橋では、夜間、搬出の抗議行動を行いました。同時に、防衛省、外務省、米軍に申入書を送って抗議し、中止を求めました。

（写真は 陸揚げされるM777軽量りゅう弾砲6門の内の1台。神奈川平和委員会提供）

海上自衛隊艦船「くらま」が「観艦式」の帰りに衝突事故

27日午後7時56分ごろ、北九州市門司区と山口県下関市間の関門海峡で、西に向かっていった海上自衛隊の護衛艦「くらま」（5,200トン）と、東に向かっていった韓国船籍のコンテナ船「カリナスター」（7,401トン）が衝突し、双方で火災が発生しました。事故当時の状況などについては、他の情報ですすでにご承知としますので、ここでは「観艦式」について記します。

海上自衛隊のホームページによると観艦式とは、「自衛隊の最高指揮官（内閣総理大臣）が艦隊を観閲することにより、部隊（隊員等）の士気を高め、国内外に自衛隊の精強さをアピールすることまた、国際親善や防衛交流を促進することや、国民の皆様々に自衛隊に対する理解を深めていただくことを目的としてい」るそうです。防衛省の「平成21年度自衛隊記念日記念行事『観艦式』実施」のお知らせ（10月23日）は以下の通りです。

- ~~~~~
- 1 期日 平成21年10月25日（日） 9:00～16:00
 - 2 実施場所 相模湾
 - 3 観閲官 内閣総理大臣臨時代理 菅 直人
 - 4 主催者 防衛大臣 北澤 俊美
 - 5 実施責任者 海上幕僚長 赤星 慶治
 - 6 執行者 自衛艦隊司令官 杉本 正彦
 - 7 実施規模 艦艇39隻（海上保安庁巡視船1隻除く）
航空機43機 人員約8,000名



写真：海上自衛隊護衛艦くらま WikiHP より